

令和元年度 第2回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和元年12月16日(月) 午後1時30分～3時

場 所 京都市生涯学習総合センター 5階 第7研修室

出席委員	浅井和行	委員	
	上原潤明	委員	
	岡本崇紀	委員	
	勝木清隆	委員	
	岸本夏海	委員	
	小林啓祐	委員	
	豊田まゆみ	委員	
	古池強志	委員	五十音順

欠席委員	阪本みゆき	委員	
	高橋利華	委員	五十音順

傍 聴 人 なし

1 開会

- (1) 向井所長の挨拶
- (2) 委員の自己紹介
- (3) 委員長及び副委員長の選出
委員長に勝木委員，副委員長に浅井委員を選出
- (4) 摘録署名人に勝木委員長を選出

2 議事

- (1) 令和元年度視聴覚センター事業について(中間報告)
「令和元年度視聴覚センター事業報告(中間報告)」の説明を行った。
- (2) その他
チラシ等配布資料の説明を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員, ・は事務局)

○高校の視聴覚教育研究会は活動できる教員が減って低調となっていることが課題と感じている。

視聴覚センターには 16mm の映写装置などの資源がたくさんあるが、活用する教員が少ない。

府立高校や私立高校とも連携を図っているが、活動する教員が少ないので、活動が低調となっている。

視聴覚に関する資源を活用して周知していきたい。映像学習も今後増えていく。広報活動に映像を使うことが重要だと考えているため、視聴覚センターの機能を活用していきたい。

○市民公募委員は毎回公募しているのか。応募は多数あるのか。

・任期 2 年で毎回公募を行っている。いろいろ広報手段を用いているが、応募が少ないのが現状である。

○ 広報活動について、アスニーシネマやキッズシネマのチラシは毎月発行されているが、どのように広報しているのか。

・図書館など教育委員会の関係部署に配架してもらっているが、このようなチラシは他局も合わせて数多くあるため、全てを配架するのは難しい。

○視聴覚センターのホームページを見て来られる市民も少ないと思われるので、より多くの市民の方がアスニーに足を運んでいただけるような場所に配架すればいいと思う。

○地域の集まりで「まなびすと」を自由に取りるように置いていたら、意外と興味のある方が多く、すぐに無くなった。

ゴールデン・エイジ・アカデミーのテーマが多岐に渡っていて驚いた。どのようにしてテーマを決めているのか、テーマを決めるために御苦労されているのではないかと想像できる。

・ゴールデン・エイジ・アカデミーは月ごとに大きなテーマを決めて行っている。そのテーマに沿って、例えば、祇園祭 1150 年や大河ドラマの時代など文化や歴史のみならず、自然科学なども取り上げ、それぞれを研究しておられる方に、講

演いただく講師として依頼している。

- ・月々のテーマとは別に、環境問題や防災に関するテーマでの講演も行っている。

- 小学校の調べ学習で外に出る時など、デジタルカメラなどの機器を使っているが、視聴覚センターにあるデジタルカメラを積極的に貸し出せば、グループで1台と
ならず皆が使用できるようになる。

- デジタルカメラの貸出は、学校単位で借りられることはあるのか。

- ・校外学習で貸し出すことはある。台数が限られているので、予約制で利用して
いただいている。

- クールスポット映画会について、開始時間を午後2時とし、1日の中で一番暑い
時間帯を設定し、効率よく行っていることに感心した。

- アスニーシネマやキッズシネマのチラシについて、それぞれのチラシ毎に用紙の
色を変えるなど工夫をしていることが伺えた。

- 子供向けの広告にはもっと「ひらがな」を多く使い、子どもに見やすくすること
や、配架については、図書館の子どもコーナーに配架するなどの工夫をすること
で広報効果が上がると思う。

- ・実際に見たいと思う子どもの目線に立った工夫を心掛けていきたい。

- 最近の中学校では、授業で映像を使用する教員が増えた。国語、理科、社会、英
語の授業で使用している教員が増えた。授業の最初に5分だけ映像を使うことで、
生徒の興味を引くことができる。また、体育祭の時に、競技のシーンで撮影し、
最終の学活までには学校のサーバにそのまま入れて、各教室のパソコンで見られ
るようにして、終わりの学活で使用するなど、視聴覚教材として、いろいろ活用
されている。

- 学校現場において、光京都ネットのイントラの掲示板でアスニーコンサートの案
内や視聴覚センターニュースを見て活用している。

- 視聴覚センターニュースには、「ホームページで確認」とあるが、平成27年度か

ら更新されていない。

- ・教育委員会の教材検索が古いようなので、対応する。

○視聴覚センターを利用する教員は、人権学習を行う際に人権啓発のDVDを使用したいと思っている。また、防災の学活を行う際にDVDを少し使用したいと思っているが、12月に掲示板に掲載されたが掲載のタイミングが遅く感じる。

- ・視聴覚センターニュースは年に2回ないしは1回の発行である。学校等の取組のタイミングの時期があるので、それを踏まえ、それに間に合うような発信を心掛ける。人権や防災など、複数の項目のメニューを見ていただけるような工夫をしていく。

○劇場映画が地域団体向けとあるが、学校現場では借りられないのか。

○視聴覚センターから総合教育センターに移管したDVDがあったが、その目録もなく、貸出の方法もないので、「全くわからない」と一般の教員が思っている。改善してもらいたい。
ちょっとした時にDVDを使用したい。光ネットのイントラに掲載して容易に貸し出せるようにしてもらいたい。

- ・移管を行った当時に、事務的にも整理していると思われるので、この委員会で意見が出ていることを総合教育センターに伝え、改善を図っていききたい。

○構えて視聴覚教材を利用するのではなく、ちょっとした時にちょっと使用することが教員のニーズだと思うので、応えてもらいたい。

- ・簡単に気軽に利用できるような工夫や情報の発信が課題と感じているので、意識して取り組んでいきたい。

- ・（学校現場では）12月是人権月間取組、1月は阪神・淡路大震災、3月は東日本大震災があったので防災の取組は1月から3月に行うのか。

○職員会議は1箇月以上前にかけるので、それ以前から情報が欲しいのが現場の意見である。

- ・現場では、夏頃に情報があればよいのか。

○その頃にいただきたい。

○以前は、人権啓発映画試写会は夏頃に行われていて、学校現場に持ち帰って決めていた。視聴覚教材は高価なため、現場では買えないので、ぜひ、再開してもらいたい。

- ・新着映画の試写会を行っているものだが、その際には改めてバックナンバーの作品にも目を通していただく機会としていた。新着の試写会を行う取組ではあったが、バックナンバーの試写を行っていくことも必要である。

○人権啓発映画試写会をやっていないということだが、過去の映画でも、著作権の問題があるならば別だが、人権の問題は新しいものだけではなく、啓発を続けていくことが大切である。令和3年まで新着を待たずに、続けることが大切である。例えば、「毎月第4土曜日には、市民公開の映画をやってます。」ということが定着すれば、皆さんにわかるようになる。やることがまちまちになると、どこから情報を入手するかがわからなくなる。視聴性の規則性を意識してやると伝わりやすくなる。

- ・人権啓発映画は新着映画を紹介するスキームで行っていたため、新着がない年度は中断していた。これまで購入した啓発映画は保有しているので、1年のこの時期には、新着の試写会ではなくとも、すでに保有している人権啓発映画の紹介として行うことを検討していきたい。

○キッズシネマで合唱などを行う学校が1校のみだが、2校や3校の複数校で実施すれば、各校がそれぞれの伝え方を勉強して、新しい発見や皆の励みにつながり、それぞれが伝え方の工夫をするようになるので、そういうイベントの考え方も良いと思う。

○学校現場ではなかなか時間がとれない。夏休みに実施してもらおうと教員が参加しやすく、かつ、人権学習の前なので良かった。コンスタントに実施してもらってもなかなか参加できないのが現状だ。新着の試写がなかった年はリストに書かれたコメントを見て借りることもあった。古い人権啓発映画の試写を行っていただければ、それを契機にライブラリーの活用につながる。

○丸太町通を通る時にアスニーシネマの看板をよく見かける。ゴールデン・エイジ向けが多いなかで、バリアフリー映画会「くちびるに歌を」を開催する予定となっているが、定員を超えた時はどうするのか。

- ・先着順なので、お断りすることになる。

昨年度は「武士の家計簿」を上映して350人の観覧者があった。

初年度は「舟を編む」を上映した。

広報アナウンスと観覧者数とは微妙なバランスの話になる。広報は行っているが、満員になると断ることとなる。アスニーシネマでも年に1・2回は満席となってお断りすることもある。

○アスニーでの自習室の取組は良いことだ。

図書館では自習は断られる。目立たないが、ぜひ続けていただきたい。

- ・自習室も試行を経て本格実施して定着してきている。ただし、貸館の空きがあるときだけ開設しており当日の朝に1階エレベーター前に掲示している。

- ・図書館への自習室の要望は多いが、どこも手狭であり、閲覧スペースを無くして自習室を確保するのは困難である。ただし、右京中央図書館及び醍醐中央図書館において会議室を利用して、学生の学習支援の目的で夏期期間中のみ自習スペースを開放している。アスニーは、中央図書館と併設している施設で、アスニーの空室を利用して、大人の方も利用できるように開放している。

京都市全体では、青少年活動センターなどで自習室として開放している施設があるため、そういった要望があれば、そちらをご案内している。

3 閉会